

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 11 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570313627号
法人名	ユウケンガイシャ 有限会社 わかば会
事業所名	グループホームきらら ^{アサマイ} 浅舞
所在地	横手市平鹿町浅舞字道川南77-7 (電話) 0182-24-0727
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年9月4日

【情報提供票より】 (平成21年8月17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 (常勤 6 人 非常勤 1 人 常勤換算 6.3 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 74 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平鹿総合病院、西成医院、俵谷歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

開設から4年目を迎え、利用者の安心と尊厳のある生活を支援し、癒しのある家庭的な生活環境づくりを理念に掲げ、地域住民との関わりを大切にしている。
 管理者を中心に職員がよく連携しながら利用者を支援しており、すべての職員を常勤職員とすることで職員のモチベーションとサービスの質の確保にもつながっている。
 また、計画作成担当者が毎月家族宅を訪問し、利用者の生活状況を報告して意向や要望を把握しており、毎日のドライブなど利用者一人ひとり合わせた個別の対応を可能にしている。
 今後は、生活している利用者の目線になってサービスのあり方を見直し、職員の勤務体制に柔軟性を持たせるなど、理念の具体化に向けて取り組むことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査で課題としていた年間の研修計画を作成し、計画的な研修参加に取り組んでいるほか、運営推進会議は意見交換の機会として充実してきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で話し合いながら自己評価に取り組み、日々の業務を振り返りながら資質向上の機会として捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では運営状況を報告し、町内活動の現状を踏まえた町内会への加入や地域との交流を深めるための取組みを検討しているほか、定期的な受診や外出支援など、家族の意見からも効果的な運営とサービス提供につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「きらら通信」を発行して定期的な情報提供に努め、事業所内に意見箱を設置したり、計画作成担当者が毎月家族宅を訪問して意向や要望などを確認しており、閉じこもらないようにとの要望に対しては毎日ドライブするなどの支援につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者が散歩している時には声をかけてくれ、事業所敷地内の草刈りを行ってくれるなど近隣住民との関わりがあり、近所の子供も達も事業所に遊びに来てくれるほか、地域のお祭りや小学校行事などにも参加している。 今後は、地域の福祉拠点としての役割を見出すための積極的な取組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを大切にしながら安心と尊厳のある生活、入居者の方々が心身の痛みを緩和し心を癒して生活できるよう努めている。			利用者の安心と尊厳のある生活を支援し、癒しのある家庭的な生活環境づくりを理念に掲げており、地域密着型事業所として、地域との関わりも大切にしている。	○	事業所の倫理綱領に、地域に開かれた事業所であることを謳っているため、地域との関わりを理念にも盛り込み、地域密着型事業所としての理念を再構築してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を確認しあい日常的に意識して働いている。			事務室など事業所内に理念を掲示し、毎朝のミーティングで確認しており、全職員が日ごろから意識して利用者に接している。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、家族等や地域の方々の理解と協力を得られるよう取り組んでいる。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段から挨拶などの日常的な近所付き合いを行っている。旬の野菜や果物を頂いたり雪よせなどの協力も得られ良好な関係ができています。また近所の小学生が気軽に立ち寄ってくれており入居者との交流がある。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭典、小学校行事などに参加し地元の人々との交流に努めている。			近所の子ども達が事業所に遊びに来たり、近隣の方が敷地内の草刈りを行ってくれるなど、地域との関わりがある。 また、地域のお祭りや小学校行事などに利用者が参加し、地域資源を活用しながら交流を図っている。	○	地域の福祉拠点としての役割を具体化するため、地域向けの広報発行や地域のニーズに応じた行事の企画など、母体法人と連携し、協力を得ながら積極的に取り組んでほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所前の道路は交通量が多いため、近隣の高齢者の方への見守りや声かけなど日常的に行っている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施によりサービスを見直す機会として職員全員で自己評価に取り組んでいる。			管理者が中心となって職員全員で話し合いながら自己評価に取り組み、理念の共有も含めて資質向上の機会として捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者家族、地域住民、民生委員の方々から意見、要望等だして頂きサービスの向上につなげている。			運営推進会議では運営状況を報告し、各委員からの意見や要望を受け止め、町内会加入の是非や地域交流のあり方を検討しているほか、定期的な受診や外出支援など、効果的な運営とサービス提供につなげている。 また、法人代表者は定期的に事業所を訪れ、利用者や近隣住民と関わりながら事業所に求められる役割・機能を模索しており、会議の内容にも反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市町村へホームの活動報告書を提出している。その際、助言を頂いたり相談に応じて頂きながら連携を深めている。			行政に対して事業所の状況を報告して助言を求めたり、介護相談員が毎月訪問して利用者の相談に応じるなど連携している。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性のある人には、活用できるかどうか市町村へ相談を行っている。関係資料の収集により学ぶ機会を持っている。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止、身体拘束廃止についての勉強会を実施し理解を深め防止の徹底に努めている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に利用者、家族との話し合いの場を持ち、不安や疑問点がないか、尋ねながら契約内容を説明している。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二週間に一度、介護相談員の訪問があり利用者が意見、不満等を話せる機会がある。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、たよりを発行し家族や遠方の身内の方にも送付している。入居者の生活状況、健康状態、金銭出納状況も併せて報告している。			毎月「きらら通信」を個別に発行し、利用者それぞれの生活状況や健康状態を報告しており、事業所全体の行事など連絡事項も併せて知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で意見、不満等がないか確認している。また月一回、計画作成担当者が入居料の集金とサービス計画書の確認の為、家族宅に訪問し聞く機会を設けている。意見等あった場合は、改善をして業務に反映している。			意見箱を設置し、家族の訪問時には積極的に声をかけ、電話でも意見や不満等がないか確認している。 また、計画作成担当者が毎月利用者宅を訪問し、利用料の集金とサービス計画の内容を確認しており、その際にも家族の意向把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング時に、職員の意見や提案を聞き話し合う機会がある。日頃からコミュニケーションを多く持つよう心がけている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員7名が常勤体制となっており通院の入居者がいる場合は日勤4名を確保する等、調整しながら対応している。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、すべて正規雇用となっており離職者は少ない。			職員はすべて正規雇用とし、サービスの質の確保に務めており、離職者が少ないため利用者にとっても精神的な安定につながっている。 また、退職時には後任の職員との引継ぎを時間をかけて行い、不測の事態には法人代表者が対応するなど利用者の負担軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や資格に応じて研修を受ける機会を設けている。			前回調査の結果を受けて事業所内外の年間研修計画を作成し、職員の経験や資格に応じて各種研修に参加しており、外部研修の報告も行い職員間で共有している。	○	研修計画をより実効性のある研修計画とするため、職員一人ひとりの目標や評価なども計画に反映させ、段階的にスキルアップできる仕組みづくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡協議会の研修会や交流会を通じてサービスの質の向上に努めている。			圏域の連絡協議会を通じて、管理者及び職員が職種ごとの勉強会などで交流を図り、事業所間でサービスの質の向上に努めている。	○	事業所間での職員交流を工夫し、さらに職員の知識や経験の向上につなげるため、相互に事業所を訪問して実践・交流するなどの取り組みに期待したい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく話し合える機会や親睦会を開き話し合いの場を作っている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホーム内の研修や外部研修に参加する機会を持ち、各自が向上心を持って働けるように努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談で本人からの話をよく聴き不安や思いの把握に努めている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用開始まで家族との面談や電話等で話し合っている。また入居前には事前にホーム見学をして頂いている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時に必要としている支援についてサービス利用の見極めを行っている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学などを通じて本人、家族が納得された上でサービスを開始している。				利用相談時に事業所の見学を行い、職員や他利用者との面識を持ち、事業所の雰囲気なども体感したうえで、納得したサービス利用につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを理解、共感し個性を引き出すよう努めている。入居者と職員と一緒に何かを行う機会も多く入居者から様々なことを学んでいる。				利用者と職員が行動をともにすることで、調理方法や味付けなど日常生活のなかで利用者に学ぶことが多く、職員も日々の生活に反映させている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡をまめに行い、話をする機会を多く持ち家族と共に支援する関係作りに努めている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人に対する思い、本人の家族への思いを受け止め伝えながらより良い関係が築いていけるよう支援している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人、親戚等がホームに来訪しやすい雰囲気作りに努めている。面会時には、ゆっくりと会話できるよう配慮している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し共に支え合い助け合えるような温かい雰囲気作りを行っている。						
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスを終了された方や家族にも気軽に立ち寄って頂いたり、相談ごとにも応じるなど利用中に培った関係を大切にすることを心がけている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、思いや希望を察し困難な場合は家族から話を伺い、本人がより良く生活ができるよう検討している。				利用者との会話の中から思いや希望を感じ取り、読書の好きな方は図書館に出かけるなど、共感し個性を引き出すよう努めている。 また、困難な場合には家族から話をうかがい、利用者がより良く生活できるよう検討している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅から入居した方は担当ケアマネからの情報、また利用していたサービスの担当者からも直接、話を聞くなど情報収集している。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族からの情報提供と、一人暮らしだった方の情報は関わりのある民生委員の話を聞くなどして把握することに努めている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の行動障害についての原因を解決するヒントとして、計画作成担当者が自宅に集金に行った際や面会時などに家族から話を聞いて介護計画に反映させている。				計画作成担当者が利用者及び家族の意向を確認し、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。 また、計画作成担当者自ら夜勤を行い、利用者のモニタリングをしながら計画につなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化を家族に知らせ、今後の方向性を話し合い修正して計画を作成している。				毎月のモニタリングを基に、職員間で検討しながら3か月毎に見直し、状態変化時には家族に知らせるとともに、意見や要望を確認して今後の方向性を話し合いながら修正している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日中、夜間の様子を記録し情報を共有しながら計画の見直しに役立てている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援									
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同系列の他事業所と連携を図りながら行事を共同で行ったり、また職員や利用者の交流を行っている。				家族に代わっての通院支援などのほか、系列事業所と連携して敬老会を実施したり、系列事業所の利用者が庭木の剪定をしてくれるなど、利用者同士の交流機会として機能を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働									
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域の方々が花の苗や収穫した野菜を気軽に届けてくださったり、花壇作りの協力もして頂いている。						
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	該当する方がいない為、他のサービスを利用するための支援は行っていない。						
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報の共有をして自宅に戻ったときに、どのような支援が必要かを検討している。また月一回の地域ケア会議に参加している。						
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関、協力歯科医等はあるが、本人や家族の意向によって他医療機関の受診も応じている。				利用者及び家族の意向に沿ってかかりつけ医を優先しているが、協力医や協力歯科医等での受診も可能にしている。 また、通院時は職員が同行しており、薬局による服薬指導などもあり連携している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、または急激な状態変化があった時には専門医の受診ができる体制にしている。受診の際は家族も同行し、状況について詳しく説明している。						
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医受診の際、なじみの看護職員に相談しながら対応している。都度、情報を共有し助言を得ている。						
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人、家族、医師、ケースワーカー、看護職員、居宅ケアマネ、民生委員等と連絡を取り合い退院に向けての支援を協議している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期と診断された利用者について家族と十分に話し合いを行い、意向を確認した上で、同意書を取り交わし方針を共有している。			利用者の重度化や終末期に際しては、家族の意向を確認し、かかりつけ医とも話し合ったうえで方針を決め、同意書を取り交わしている。	○	事業所で看取りたいとの思いがあるため、協力できる看護師の確保や医療機関との連携など、必要な条件を整えながら体制を確立してほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と十分に話し合い、主治医の協力も得ながら当事業所で可能な最大限の支援をチームとして取り組んでいる。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対し情報提供を行い、スムーズな住み替えとなるよう配慮している。また家族、職員が同行し、住み替え先の施設見学を行いダメージが少なくなるよう努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりについての言葉かけや対応について、ミーティング時に確認しあい適切な対応に努めている。プライバシーに配慮した記録等、職員全員が対応している。			利用者の行動障害や食べこぼしなどにも丁寧に対応し、職員会議で確認してケアに差が出ないように配慮している。 また、利用者に関する記録も表現をやわらかくするなど工夫し、個人情報の取り扱いに関しても職員間で徹底している。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と同じく話をするにより、本人の思いを受け自己決定できるようにしている。自分の思いを言葉で表現できないときは、行動や仕草により察し、思いを遂げられるように支援している。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うように情報収集し、本人が「他の人と違うから都合が悪い」等々、思わせないように配慮している。			利用者のペースに合わせ、居室で食事をする方や図書館への外出、毎日ドライブする方など、利用者の希望に沿ったケアを心がけながら対応するよう努めている。	○	夜間に落ち着いて過ごせるよう、日中のケアを手厚くしているが、利用者の重度化や状態変化により利用者のニーズが多様化したり、家族の意向も様々になることを想定し、柔軟な対応ができるよう今後の体制のあり方を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の希望で理容師の出張をお願いして地域の支援をうけている。本人のおしゃれや服装の好みを理解し、コーディネートと一緒に考え支援している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時、利用者の食べ残しがあった際、その方と会話しながら食べれるように調理したり好きな物を把握し出すように努めている。手伝いの出来る方には仕事を分担し無理のない範囲で行ってらっている。			食べ残しがあれば調理方法を工夫し、嗜好に合わせてメニュー変更したり、外食などにも出かけて食事を楽しんでいる。 また、調理師資格のある職員が盛り付けを工夫し、器もそれぞれに用意するなど家庭的な食事を意識している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限り本人の希望に添えるよう対応している。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	言葉かけに気をつけながら気持ちよく排泄できるよう支援している。利用者の排泄パターンを把握し声かけを行っている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向に沿い希望があれば曜日に関係なく入浴してもらっている。時間帯は日勤の時間内で行っている。			入浴は日勤の時間内で利用者の希望に合わせて対応しており、少人数で温泉に出かけることもある。 また、同性介助についての意思確認を行い、入浴を拒む方には時間を変えて促すなど支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室で過ごされたい方には、出来るだけ本人の休息時間の妨げにならないよう訪室し会話する時間をとりながら支援している。ホールで過ごしている方は、それぞれ自分の居心地良いスペースで過ごしてもらっている。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションや趣味等、利用者の生活歴や力を活かし楽しみながら継続できるよう支援している。読書が趣味の方は図書館に行ったり、ドライブ、外食、花見など気分転換を図っている。			利用者の生活や経験を生かし、食事の準備や片付けなどの役割を持ち、読書やドライブなどの趣味活動も継続できるよう支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、御家族と話し合いながら対応している。現在は、お金を自分で所持している方はいないが、買い物の際は本人がお金のやりとりが出来るよう支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に考慮しながら散歩やドライブ等、希望にそって出かける機会を作っている。			毎日ドライブするなど利用者及び家族の要望に応え、散歩や近隣図書館など外出の機会を多くつづけている。 また、季節に応じた花見などの行事のほか、外食などにも出かけて閉じこもらないよう配慮している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の要望があれば可能な限り出かけられるように努めている。家族との外出時には安心して楽しめるよう支援している。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用して頂いている。手紙の代筆なども行っている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の訪問の際には気兼ねなく会話できるスペースを提供し時間を制限することなく楽しく過ごせるよう支援している。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない方法を職員間で話し合い身体拘束のないケアを実施している。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関は、夜間以外施錠せず見守りを徹底し利用者の行動を妨げないよう支援している。また近隣住民と顔見知りになっており、外出時には気軽に声をかけて頂いている。			日中は玄関に施錠せず、職員による見守りや声かけを徹底して利用者の自由な行動を支援している。 また、外出時には近隣住民が気軽に声をかけてくれ、地域の見守りに関して協力を得ている。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や様子を把握している。プライバシーに配慮しながら安全に過ごせるよう支援している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態にあった対応をしている。置き場所を決めており使用後は、その都度元に戻している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を活用し対策をしている。一人ひとりの心身状態や日常生活行動から、どのような危険が予想されるのか話し合っている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを作成し、いつでも確認できるように事務室に掲示してある。職員の半数が上級救命講習を受講している。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員立会いのもと、年2回の避難訓練を近隣住民の協力を得ながら行っている。主食を災害に備え備蓄している。			近隣住民が参加して年2回の避難訓練を行い、緊急災害時に駆けつけてくれるなど協力体制を確保しており、非常用の食料や缶詰なども備蓄して万が一に備えている。	○	緊急災害時における近隣住民の協力が得られていることから、今後はそれぞれの役割なども明確にし、実効性のある協力体制を構築してほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの心身状態により起こり得るリスクについて家族と話し合いを行っている。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックのほか、本人への体調確認や観察、記録を行っている。異変発見時には職員全員に周知徹底し必要に応じて医療機関を受診している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりファイルに処方箋を添付しており変更があった場合は差し替えている。服薬時には内服介助や見守りを行っている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操や軽運動を行い自然排便に努めている。その他医療機関を受診し薬の服用を行っている。食事では食物繊維を取り入れるなど工夫している。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士管理のもと一人ひとりの状態を把握し、毎食後の口腔ケアを行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう状況を把握 し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じ た支援をしている	一日の食事、水分量をチェック、記録して把握し ている。栄養が偏らないよう計算を行いバランス が取れるよう工夫している。			利用者の食量や水分量を毎日記録し、調理師 資格のある職員がカロリー計算を行い、栄養が偏 らないよう配慮している。	○	適切な栄養管理の根拠を明確にし、職員の自信 にもつながるよう、年1回は栄養士等の専門家に よるチェックや指導を受けることを検討してほし い。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取 り決めがあり、実行している（インフル エンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノ ロウイルス等）	マニュアルに沿って手袋、マスク、エ プロン等の使用、手洗い・うがいの徹 底、消毒を行っている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場 としての台所、調理用具等の衛生管理 を行い、新鮮で安全な食材の使用と 管理に努めている	台所や冷蔵庫、調理器具等の消毒を 行い衛生管理に努めている。食材は 使い切りとし残り物は全て処分して いる。また近隣から差し入れられた 採りたての野菜を使用している。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの 工夫 利用者や家族、近隣の人等にと って親しみやすく、安心して出入 りができるように、玄関や建物周 囲の工夫をしている	玄関前には季節の花を植え家庭的な 雰囲気作りに努めている。気軽に 近隣の方々が立ち寄れるよう 玄関の戸を開け開放感を感じら れるようにしている。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、 台所、食堂、浴室、トイレ等）は、 利用者にとって不快な音や臭い や光がないように配慮し、生活感 や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をして いる	共用空間での不快な音や臭いが ないよう配慮し、一日数回の掃 除や換気を行っている。ホール 内に居ても季節を感じられる よう花を飾ったり季節の装飾 をして工夫している。			共用空間にはテーブルやソファ ーなど自由に過ごせる場所を 幾つかつくり、静かで清潔な 環境づくりに努めている。 また、事業所内に一輪挿しの 花を飾り、大きな窓からは 外の景色がよく見え、季節 が感じられるよう配慮して いる。	○	ソファの一角を畳に変える など、利用者が気軽に横に なれるスペースづくりを 検討してほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの 居場所づくり 共用空間の中には、独りにな れたり、気の合った利用者同 士で思い思いに過ごせるよう な居場所の工夫をしている	各コーナーにソファやテー ブルを配置し利用者が自 分のペースで自由にくつろ げるような居場所作りに 努めている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の 配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、 本人や家族と相談しながら、 使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地 よく過ごせるような工夫を している	慣れた生活用品、親しみの あった装飾品など、それぞ れに持ち込んで使用してい る。入居時や面会時など家 族には持ち込んでほしい旨 を伝えている。			自宅から使い慣れた生活用 品や親しみのある装飾品 などを持ち込み、それぞれ に配置を変えて個性ある 居室としている。 また、家族から要望があ れば居室に泊れるよう 配慮している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよ どみがないよう換気に努 め、温度調節は、外気温と 大きな差がないよう配慮 し、利用者の状況に応じ てこまめに行っている	エアコンや加湿器、空気清 浄機などを使用し温度・ 湿度調節に配慮してい る。窓を開けたり、換 気扇をつけてこまめな 換気を行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、風呂場、トイレ等手すりを設置している。1人ひとりの状態にあわせ歩行器や車イスを使用し安全に自立した生活を送ることができるようにしている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室、トイレ等には入り口に目印をつけ不安や混乱を招かないよう工夫している。浴室には「ゆ」の暖簾をつけ、トイレのドアにはマークを貼っている。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植え園芸活動を一緒に行っている。収穫の喜びを分かち合いながら食事に使用している。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「認知症によって、自立した生活が困難になった方々に対して、安心と尊厳のある生活を営むことを支援し、家庭的な雰囲気のある住環境のもと認知症高齢者の方々が、心身の痛みを緩和し、心を癒して生活出来ることにお役に立ちたいと願う」の理念のもと職員は、入居者一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し大切にしながら、穏やかな生活が送れるよう支援しています。家族、親戚、友人、地域の方、いつでも気軽に立ち寄り、入居者の方達にもなじみの関係を築いていけるように家庭的な雰囲気を大切にしながら交流の支援、継続を行っていきます。園芸作業、調理、裁縫など個々の経験や生活習慣の中から得意な野での力を発揮出来るように場面の設定にも気配りし、役割や楽しみごとなど生活に張りのある支援を継続していきます。